

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p><理念>地域の中で安心して暮らせるよう、常に笑顔絶やさず、入居者の尊厳を保持し信頼関係を築きながら支援します。をかねて取組んでいます。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる</p>	<p>毎朝申し送りの際理念を読みあげ、今日も利用者のために取組んで頑張る事を職員同士で確認しながら仕事しています。日々のケアは笑顔で提供するように心掛け、利用者の希望を最優先するなどの取り組みを行っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取組んでいる</p>	<p>入所時に説明をしており面会時や、家族運営推進会議等の場で説明をするようにし、理解してもらえる様取組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>・町内会長さんの協力を得て菜園活動を実施している。 ・老人クラブの方々に行事で踊りやカラオケ等を披露して頂き、交流を持っている。 ・管理者はキャラバンメイトになったばかりなので、これから広報誌を利用したり、地域の集まりがあった際は認知症についての説明をしたりして普及活動に取り組んでゆきたい。</p>	<p>管理者は今年度キャラバンメイトになり、今後地域の認知症普及活動に積極的に取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>必要に応じては講師を呼ぶなどして、虐待について学び、入居者はもちろんの事、家族からも理解して頂けるような対応をしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動があった際は職員間での引き継ぎをしっかりと行い、不穩、興奮する利用者に対し早く慣れるよう配慮している。また、周りの職員もそれをサポートし利用者や異動してきた職員が早く馴染めるようにしている。		
5.人材の育成と支援			
17 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内外の研修計画書をつくっており、それに基づいて全職員は定期的に外部研修へ参加し、施設内での勉強会や講師を呼んでの施設内研修も行いスキルアップに繋げている。		
18 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流会を実施したり、互いに広報誌の交換を行い、交流を図っている。その際に得られた気づきなどをその後の運営にいかしている。		交流する機会を増やして入居者同士はもちろんの事、職員も仲良くなる事でレベルアップに繋げて行きたい。
19 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	有給休暇を定期的に取得して気分転換をして仕事に臨んでいる。体調不良時の際には、管理者に報告をして、職員の勤務変更等で対応している。職員一人ひとりがしっかりと健康管理等が出来ている。		休み時間などを利用して、職員同士困った事など相談してストレスを溜めないように努めているが、日帰り旅行やキャンプなどでリフレッシュに繋げてゆきたい。
20 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	必要に応じて相談にのり、継続して働いていけるよう本人の良い所は認め、苦手なところは、アドバイスをのばしてあげられるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>出来るだけ来所してもらい施設の作りや雰囲気を感じて頂いて、時間をかけて面談し、本人、家族が安心して預けてもらえるよう努めている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の話しを傾聴し、必要としている支援を見極めて対応している。状況に応じて在宅時のケアマネにも相談をして取り組んでいる。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族と相談しながら、入所時には自宅で使用していたものを持ってきてもらい落ち着いて暮らせるようにしたり、他の利用者になじめる様職員が工夫し本人のペースに合わせた対応をしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>介護される立場としてではなく、「おばあちゃんの知恵袋」を引き出しながら、アドバイスをしてもらい共に支え合いながら生活している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	連絡を取り合って、本人を支える相談をしたり、行事参加を促したり、日々の生活の中で、共に支える関係を築いている。		行事の中に、家族参加のものが少ないのもっと家族が集まる工夫をした取り組みを考えてゆく。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族間のことを理解し、今までと変わらない良い関係が築けるよう、面会時には本人と家族のくつろげる空間が持てるよう工夫している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人の面会はもちろんの事、ご家族との外出も気軽にできる関係を継続できるよう支援している。		歩行が不安定で車椅子を使用するようになると、外出する機会が減り、家族からも「危ない」という理由で外出も減ってしまいがちなので、その時は職員が付添いするなどして、外出の機会を確保してあげる。
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を理解し、スタッフも輪の中に入り、利用者同士の関係がスムーズに行くよう努めている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了時に、他のサービスにつなげる努力をしているが、家族が不安になった時には、いつでも相談してもらえる様に声をかけている。		広報紙を配って、継続的な関わりを保てるようにしてゆく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの生活歴や本人・ご家族の意向を元にケアプランの作成を行っている。また、外出の際もどこに行きたいか、何が食べたいか等利用者の意思を尊重して行っている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>日々の生活の流れにおいて入居者に1つ1つ聞きながら業務をしている。時々回想法を取り入れながら、対応する事で会話にも幅が増え、それを元にケアに結びつけている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>本人の有する能力を発揮できる様に、その日の状態に合わせ、職員がかかわる様にしている。認知症の為、急に興奮したり、不穏になって落ち着きがなくなったりする事があるので、表情の変化や息遣いなどには注意して対応している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の観察を通し課題等を明確にし本人、家族の意向を把握しながら全職員にて、介護計画の作成に当たっている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人の心身の状況変化に応じ、家族、本人、職員はもちろんのこと、必要に応じて、適切な対応ができるようDrからも説明をもらって、介護計画の見直しを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの中で気づいた事を、毎日記録に記入し、申し送りするなどして情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
36 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じての外出を取り入れたり、緊急の受診対応も行っている。又終末期にはできる限り、本人、家族の意向にそえる様HPとの連携をはかり、対応している。		
37 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域住民や消防などにGHの理解をして頂ける様に働きかけると共に、協力をお願いしている。		広報誌を定期的に配布して協力を要請している。ボランティアについては回数が少ないので今後、学校、社協等に働きかけ、支援してもらいたい。
38 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じ、ケアマネジャーや他事業所等と連携し支援している。。		
39 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	キャラバン・メイトの普及活動に取り組んでいる。運営推進会議の席で疑問事項があった時や新型インフルエンザの予防対策について相談している。		キャラバン・メイトの取組は、今始めたばかりなので機会を見つけて、地域の方達と交流を持ち理解を深めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族希望のかかりつけ医に受診している。本人の状態により、他の病院にかかる際は家族に説明し、しっかりと納得した上で、かかりつけ医を決めている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に対応できるDrの受診を受け、本人に合った対応をしてもらっている。定期受診をする事で正しい服薬はもちろんの事、状態が悪ければ、必要に応じて治療対応に繋げる事が出来ている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	GHには看護師がいない為、併設されている特養やかかりつけの病院のDrと連絡や相談をその都度している。助言をもとに日常の健康管理を行っている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は面会に行き状態を確認し、職員には申し送り家族には密に連絡を行っている。必要に応じて、病院関係者との相談や、家族を交えた情報交換をしている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所するに当たって家族と重度化した場合について検討してから入所に繋げていますが、入所後ADLの低下が見られた場合には、かかりつけ医の指示の下再度家族、本人他職員全員で方針について検討し、取り組んでいます。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の意向を踏まえ、かかりつけ医との連携により対応している。又、状況変化のたびに何度も相談している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族様に状態報告をして入居者様が不安を抱かないように、家族を含めた関係者と十分な話し合いをしてから実施している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入所する際に個人情報の取り扱いについて確認している。また研修等に参加してプライバシーの確保について学び、園内研修や会議を利用して発表する事で職員間の意識の向上に努めている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個々の思いや希望を日常生活の中で確認しながら、本人にあわせた生活支援をしている。自己決定が難しい入居者に対しては、出来るだけ本人の意思を出せるような会話をするよう心掛けている。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入所者は高齢であり、ADLの低下が進んできている為、本人の希望を聞き、健康状態を考慮した上で無理のないペースで過ごせるよう支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居間もない時は、行きつけの美容院に連れて行ったこともあったが、移動が大変になってきている為、GHそばにある散髪屋を呼んで、本人に確認しながらカットしている。意思疎通が難しい方については家族に確認してカットして頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者に手伝ってもらいながら準備や片付けをしている。通常のコミュニケーションを通して、食べたいものやその料理の作り方を聞いてメニューに取り入れている。行事食はもちろんの事、旬の素材のものを利用して調理している。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者で酒、たばこを好む方はいない。コミュニケーションを通して嗜好調査し、なるべく早めに準備したり、作ったりして希望を叶えてあげられるよう対応している。おやつは、入居者から要望があるため、鍋っこ団子や蒸しパン、草団子をつくっている。漬物は入居者より要望多いので一年を通して手作りし食事の時に提供している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握しその人にあたりハビリパンツや、パットを使用して排泄誘導を行っている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めています。本人の状況により日にちをずらして入浴している。		入居者から入浴希望時間があった時は取組んでゆきたい。
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の今までの生活習慣をあまり変えないよう、一人ひとりの状態に合わせて支援している。食後の一服休みも大切な体のコントロールなので、夜間の睡眠に影響がない程度の休息を支援している方もいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に役割を決めており、毎日何かしら役割がある。散歩、ドライブ、外出などをすることで気晴らしをしている。短時間でも施設の畑を眺めるとか、観音様に御参りするなど施設周辺を活用して生活に張りを持ってもらっている。		入居者は高齢になっているため、無理のかからない工夫も、考えて対応して行かなければならない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者がお金を管理する事が難しい状況なので施設で管理している。お金を心配するときには助言対応にて納得されている。ショッピングやパン屋より購入するときには、必要なお金を主に渡し、購入してもらいお金の出し入れをしてもらっている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の状況により「フキ採り」「蓬採り」に出かけたい、と要望があればすぐ対応しているし、外でご飯が食べたいとか、散歩したい等そのつど対応している。外食やショッピングの行事を取り入れて気分転換をはかっている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事や外食会などを企画して外出の機会を作っている。数人で行ってみたい、全員で外出したりしている。季節感を感じれるような所には全員で行くよう予定している。	○	家族も参加した外出行事を行ってみたい。
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚、知人の面会が定期的にあるので今のところ手紙や電話の訴え等もないが、訴えがあった時には柔軟に対応していくよう申し送りを活用する事している。	○	年賀状、暑中見舞い等無入居者本人自らが書いたものを発送するようにしたい。リハビリ、心の交流も考えて取組んでいければと思う。
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来てもらえるような環境作りに努めている。居室やホールや食堂など、好きな場所で語らえるよう対応している。テーブルや椅子を設置している。天気が良ければ、入居者と散歩をしに来る家族もいる。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について職員が十分理解して取り組んでいるので適切なケアが出来ていると思うが、今後も継続的に努力していきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当初より玄関に鍵を掛けずに解放的な生活を送れるように取り組んでいる。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の状況を日々把握して常に目が届くように、気を配り声がけを大切にして転倒や事故を起こさないように配慮している。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状態に応じて使用したり、危険が生じる恐れがあるもの(消毒液、洗剤etc)などは事務所内で保管し危険防止に取り組んでいる		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを活用し全職員で事故を防ぐための取り組みに繋げている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急の講習を受けたり、急変時のマニュアルを作成して定期的に訓練している。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月防災訓練を実施し生活の中で災害がおきたとき安全に避難できるようにしている。訓練の時はマイクで近所に通報している。又、近隣住民に対しては、広報誌を手渡すときに火災時等の協力をお願いしている。		防災(火災)訓練は毎月実施しているが、地震、水害等の災害対策は充分とはいえないので、今後、マニュアル等整備し、安全に避難できるよう訓練していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作り、感染症の対応について理解している。新型インフルエンザの流行に対して、玄関にお知らせの紙を張り、来客者の方にも手洗い、うがい、マスク着用等の理解と協力をお願いしている。職員は手洗い、うがい、マスクを使用し感染予防をしている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は2～3日に1回のペースで買出している。痛みやすいものは冷凍保存して食材の管理をしている。まな板や布巾などは定期的に消毒して使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を植えていて、家庭的な雰囲気を出迎えるよう明るい雰囲気を作り、出入りしやすいようにしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールが広いので、円形のソファを置き、利用者の個々の顔が見えるようにしている。季節の花を飾ったり、観葉植物を置いて落ち着いて過ごしてもらえるようにしている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが利用者の落ち着く場所になっており、声を掛けなくても自然と集まり、それぞれ会話している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

外出する機会を多く設けており、ドライブやピクニック、外食会などの行事を多く取り入れて気分転換を図ってる。
 喜び、施設の周りには栗、サクランボ、りんご、プルーン、クルミ、グミ等の木があり成長過程を見ながら収穫する楽しみがある。
 畑で野菜作りをしていて、野菜の成長を楽しみながら収穫する楽しみがある。
 敷地内に観音様があり散歩を楽しみながらお参りをしている。
 開設時より猫を飼っていて一緒に暮らす事で癒され、精神安定に繋げることが出来ている。